2025 年 4 月吉日

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°63　アレックス・フォワヤール

生産地方：ボジョレー

新着ワイン 3 種類♪

AC ボジョレー・ヴィラージュ 2023（赤）

北向きのヴィエーユ・ヴィーニュの畑のブドウからできる酒質が柔らかくエレガントでジューシーな飲み口が特徴のボジョレー・ヴィラージュ。2023 年は、収量に恵まれた上に夏の昼夜の寒暖差によりブドウがしっかりと完熟した当たり年だった。醸造はジューシーな味わいを意識し、タンニンを抽出し過ぎないようにマセラシオンの期間をいつもよりも短くした。出来上がったワインは、コクのあるジューシーな果実味が口の中でとろけるようなまろやかさがあり、日中の暑い太陽、そして涼しい夜と寒暖差のある夏に恵まれたまさに 2023 年のミレジムの特徴が余すところなくワインの味わいに表現されている！単なるボジョレー・ヴィラージュには収まらない色気満載なワインだ！

AC ブルイィ 2022（赤）

畑はクリュの中でも比較的標高の高い北向きの斜面に位置し、昼夜の気温差によりブドウがしっかりと完熟するアレックスのブルイィ。2022 年は猛暑と日照りの年で、向かいのコート・ド・ブルイィは収穫前の雨に恵まれた一方、ブルイィはミクロクリマにより雨雲が外れてしまった。そのため収穫したブドウはコンパクトで果汁が少なく凝縮していた。醸造は、ブドウの糖度が高かったため発酵に時間がかかったが、スタッグなどの問題なく最後まで終わらせることができた。熟成は、アルコール度数が高いのでフレッシュさを残すために樽熟の比率を下げた。出来上がったワインは、滑らかかつリッチでボリューム豊かな味わいに仕上がっている！ガメイなのにまるで南ローヌのグルナッシュのような果実の凝縮味があり飲みごたえ十分！酒質がまろやかなので今飲んでも美味しいが、あと数年寝かせた方がアルコールの角が取れさらに色気が出てきそうな、そんなポテンシャルを秘めたワインだ！

AC コート・ド・ブルイィ 2022（赤）

畑はクリュの中では丘の麓に位置するが、ブルイィよりも標高が高く、北向き斜面の砂の土壌がエレガントなワインを生み出すアレックスのコート・ド・ブルイィ。2022 年は記録的な日照りに見舞われたが、収穫直前に降った雨のおかげで水不足は免れた。醸造は、ブルイィよりも発酵の勢いが良く順調に終わらせることができた。熟成は、ブルイィ同様にフレッシュさを残すために樽熟の比率を下げた。出来上がったワインは、果実味がリッチかつエレガント！ブルイィよりもフレッシュで酸があり、収穫直前に降った雨による違いが味わいにみごとに反映されている！また、ワインの重心が低くストラクチャーもあり長熟を予感させる！寝かせるとさらに上品な味わいが進化しそうなスーパーボジョレーだ！

ミレジム情報

2022 年は、2003 年に次いでブドウが早熟で記録的な日照りの年だった。冬は比較的温暖で雨も適度に降った。4 月上旬に寒波が降り霜のリスクがあったが、幸い収量にはほぼ影響がなかった。寒波の後直ぐに今度は急激に気温が上がり 4 月、5 月と初夏のような天候が続いた。ブドウの成長も一気にスピードを上げ、5 月終わりの時点で例年よりも 1 ヶ月早い成長を見せた。また、開花も順調に終わり豊作が期待された。だが、一方で日照りが 4 月後半から 8 月まで続き、ブドウは慢性的な水不足のストレスを抱えていた。幸い、夏は昼夜の気温に寒暖の差があり、夜は比較的涼しかったので、ブドウもどうにか水不足に耐えることができた。しかしながら、8 月中旬にボジョレー各地でまとまった雨が降る中ブルイィはミクロクリマにより雨が降らず、最終的に収量を減らしてしまった。

2023 年は、総じてバランスの取れた天候と収量にも恵まれた当たり年だった。冬は暖かく乾燥していた。4 月中旬に寒波が降りたが、霜の被害はなかった。その後 5 月は雨が多く気温の上がらない不安定な天気が続いた。6 月に入ると天候は回復しブドウの成長も一気に加速した。7 月は猛暑が続いたが、8 月に入ると気温が落ち着き、昼夜の気温に寒暖の差があったおかげでブドウは水不足のストレスから免れることができた。そして、8 月終わりに降った雨によりブドウは息を吹き返し、最終的に果汁を多く含んだブドウを収穫することができた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

去年 9 月に恒例のフォワヤール家の収穫に参加した。私が参加した日はジャンのコースレットとアレックスのフルーリーの収穫だった。

左下の（写真①）はアレックスが 2022 年に取得したフルーリーの畑。2024 年は、2021 年に次ぐ雨の多い年だった。この畑はアレックスが 2022 年に取得しビオに転換してから 3 年になるが、緑色の縦に細く伸びるキク科の植物 Erigeron（エリジェロン）が畑を覆っていた。アレックス曰く、エリジェロンは他の雑草よりも強く、化学肥料に含まれるポタシウムの多い土壌で多く繁殖する雑草なのだそうだ。エリジェロンが多いということは、すなわちまだ土壌のポタシウムが多いという証拠なのだが、彼自身はあまり心配していないようだ。これは畑のビオの転換期によくある現象で、今はこのエリジェロンが土壌のデトックスを行なっている最中だと彼は見ている。

（写真①）0.5ha あるアレックスのフルーリーの畑

（写真②）雹の被害を逃れたフルーリーのブドウ

右上の（写真②）はフルーリーのブドウの写真。2024 年は、多くの地域がかつてない凶作に見舞われる中、ボジョレーは霜の被害もなく、雹に当たった地域以外は比較的収量が取れた年だった。だが、アレックスのフルーリーは、6 月に一部雹に当たってしまったため 60%減とのこと。確かに、収穫を進めると、畑の手前の方は写真のように房が多く付いているが、段々奥に入っていくと途中パタッと区切られたようにブドウがなくなり、その閑散としたゾーンが雹の被害の大きさを物語っていた。アレックスもジャンと同じ 30 人以上で編成された収穫者を使うため 0.5ha の収穫はあっという間だった。

（写真③）収穫したブドウを急いで冷蔵室へと運ぶジャンとアレックス

収穫を終えてカーヴに戻ると、ジャンとアレックスは収穫ケースに入ったブドウの収納に大忙しだった。(写真③) ジャンもアレックスも、タンクに入れる前にいったんケースごとブドウを 4℃に設定された冷蔵室に入れ 1 昼夜かけて冷やしてから醸造作業に移る。作業を見ていても、ジャンはアレックスを一番頼りにしているのか、頻繁にアレックスと意見交換をしていたのがとても印象的だった。実際、ジャンはフォークリフトの作業や指示を出す以外はほぼアレックスに醸造作業を任せている。それだけジャンは今息子に対する信頼が厚いのだ。アレックスもジャンに意見をしながらも、ジャンの意見にはしっかり耳を傾ける。親子共々とても良好な関係だ。

そんなジャンのワインをかなり任されているアレックスのワインも、世界中で少しずつ評価が上がっている。今回リリースするアレックスの 2022 年も、ジャンのワインと匹敵するくらい魅力的だし、寝かせるとジャンのワインにも並ぶポテンシャルがあるだろうとワクワクする。アレックスの寝かせたワインを飲む機会が増える今後、様々な国でさらに評価されることは間違いないだろう。

「将来的にジャンのドメーヌを継ぐ意思はあるのか？」とアレックスに訊いてみた。彼は、いったん考えた上で「自分にはアレックス・フォワヤールのドメーヌがあり、ジャンのドメーヌには弟のルイがいる。将来的にもジャンのドメーヌは家族で支えていくが、今はドメーヌの継承は考えていない」と答えた。弟への気遣いなのか、なかなか渋い回答だった。以前と比べてやんちゃな感じはなく、落ち着いた控えめな語り口に貫録がついてきたように感じた。ジャンの世代の後のボジョレーを牽引する若き逸材として期待されるアレックス・フォワヤール。今後の活躍にも目が離せない！

（2024.9.19.のドメーヌ突撃訪問より）

※弊社ＨＰ「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ